

1915
大正4年度



2015
平成27年度

分村100年記念事業検討委員会が発足 事業内容の検討が始まりました。

平成27年度に記念すべき分村100年を迎えるにあたり、その記念事業の内容について検討する「分村100年記念事業検討委員会」が平成25年11月22日（金）に発足しました。

幅広い分野・年代から選ばれた委員10名（右下表）に委嘱状が交付され、委員長に堂前和彦さん、副委員長に浜田義昭さんが就任しました。

伊藤町長から「大正4年4月1日に和寒村が誕生し、平成27年は100年という歴史を刻むことになる。町民皆さままでお祝いし、先人のご苦勞に感謝するとともに、さらなる100年に踏み出す、和寒町が和寒町でありつづけるためにその決意を誓い合う、そのような場にしていきたい。」とあいさつ。

第1回目の検討委員会では、記念事業の検討体制や作業スケジュールについて確認をおこない、12月11日にも第2回目の検討委員会を開催しました。

今後も記念事業の内容について検討をかさねて、平成26年3月に「わっさむ分村100年記念事業基本計画」を策定していきます。



分村100年記念事業検討委員

役職	氏名
委員長	堂前和彦
副委員長	浜田義昭
委員	石田綾子
〃	今田八千代
〃	合田菊夫
〃	佐藤伸二
〃	高橋政利
〃	西田きみ子
〃	長谷川律子
〃	真鍋喜美江

(敬称略)

※基本計画（案）は次ページのとおりです。



■分村の喜び

剣淵村が誕生して9年後の大正4年4月1日、和寒村として分離独立、初代村長に関根源三郎が就任、5月には村会議員選挙（定数12名）が行われ、6月10日第1回の村会（今の議会）が招集開催されるなど新生和寒村として産声をあげる。

分村の気運が高まったのは、明治42年で、当時和寒地区は戸数800戸、人口4,000人に達し、剣淵村人口の約50パーセントを占めていたが、和寒地区の意見が聞き入れられず、分村請願の理由の中にも「何事をするにも相反目し、結局は不公平な扱いが多い、このままでは村制を乱し、民情を害す恐れがある」と述べられているように、村行政への不満が強かったことが伺われる。

この年の6月に有志らが集い期成会を設立、分村活動が進められ、6年後の大正4年母村からの独立を果たし、4月18日に村民あげて盛大に祝賀会が催され、喜びを分かちあった。

(和寒町史より)

第1回検討委員会では、次の基本理念、基本コンセプト、記念事業の柱が確認されました。今後、記念事業の柱に基づく記念事業の内容について検討していきます。

わっさむ分村100年記念事業基本計画（案）

① 基本理念

大正4年4月1日、剣淵村から分離独立し“和寒村”が生まれました。
和寒村生誕から数えて100年目を迎える平成27年を、先人たちへの感謝とともに、ふるさと和寒の伝統と誇りを胸に抱き、さらなる100年へ夢と希望をつなげていく「第一歩」としていきます。

② 基本コンセプト

<スローガン>

恵みの大地わっさむ さらなる100年への絆

③ 記念事業の柱

(1) わっさむの100歳を祝います。

- A. 100年の節目を祝い、未来を語る
検討事項…記念式典や記念表彰、テレビやラジオ番組の公開放送、記念イベントなど
- B. お祝いムードを高める
検討事項…記念品の作成、啓発事業 など



(2) わっさむの歴史やその歩みを想います。

- C. 伝統を守り、100年後に伝える
検討事項…ふるさとの歴史と地域文化を伝承するためのあり方 など
- D. 歴史をまとめ残す
検討事項…記念誌の編纂、写真や映像の収集・保存 など

(3) わっさむの未来を創ります。

- E. 101年目として新たに生み出す
検討事項…イメージキャラクターの制定、カントリーサインの見直し
彩りある景観整備 など
- F. 地域資源を次の100年でも活かす
検討事項…新たな連携（国外、大学、都市）によるまちづくり
地域資源を活かした交流人口の拡大 など